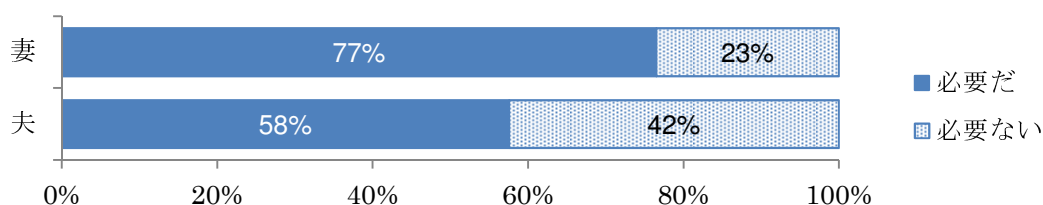


1 子供を望むが不妊検査を受けていない夫婦の意識

(1) 検査の必要性についての意識

必要との意識が多数派となったが、必要ないとする割合は、妻は2割であるのに対して夫は4割となり、妻に比べると夫の方が検査の必要性を感じていない。

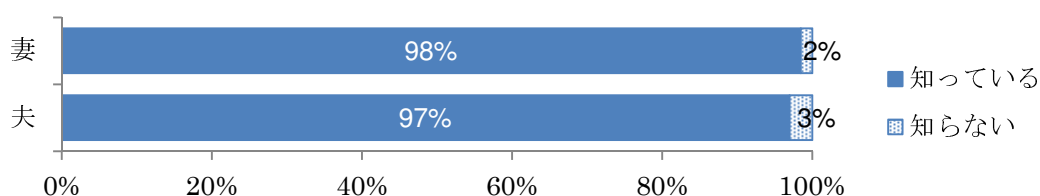
<表1：子供は自然にできると思うので特に検査は必要ないと考えている>



(2) 加齢と妊孕率^{にみょうりつ}にかかる医学的な知識

加齢に伴い不妊のリスクが高まることは夫婦とも高い割合で知っている。

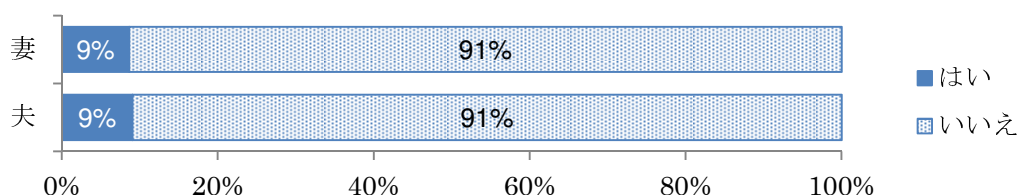
<表2：医学的に年齢が高くなるにつれて妊娠しにくくなるデータがあることを知っている>



(3) 不妊症に対する認識

不妊症の原因は女性だけではないという認識は夫婦とも高い割合で知っている。

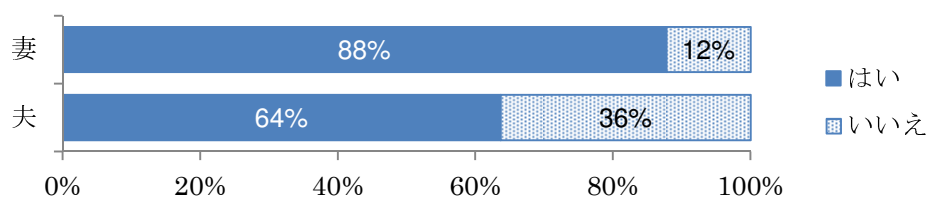
<表3：不妊症は女性の病気だと考えている>



(4) 不妊の定義の知識 (妊娠を望む男女が避妊をしないで性交をしているにもかかわらず、1年間妊娠しないこと)

夫婦とも知っている割合が高いが、妻が9割弱であるのに対し、夫は6割程度と、妻に比べると夫の知っている割合が低い。

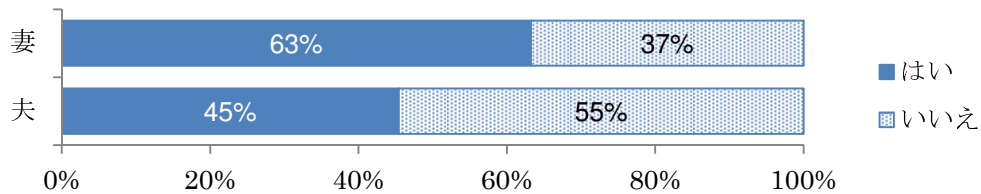
<表4：不妊の定義を知っている>



(5) 不妊症を疑ったことがある

夫は不妊症を疑っていない割合が過半数となったが、妻は不妊症を疑っている割合が過半数となった。

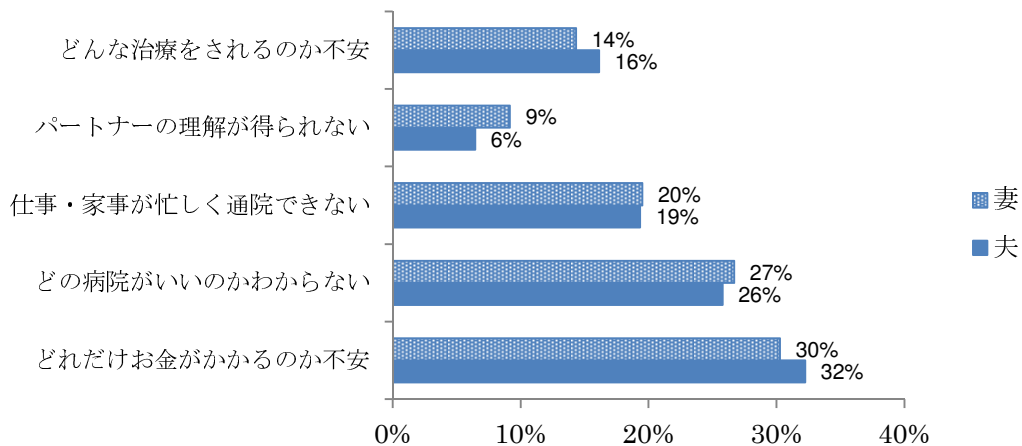
<表5：自分またはパートナーが不妊症かもしれないと考えたことがある>



(6) 検査に行っていない理由

夫婦ともに「検査・治療に要する費用についての不安」が最も多かった。次点で「どの医療機関がいいのかわからない」となり、検査・治療についての情報が不足していることが伺える。

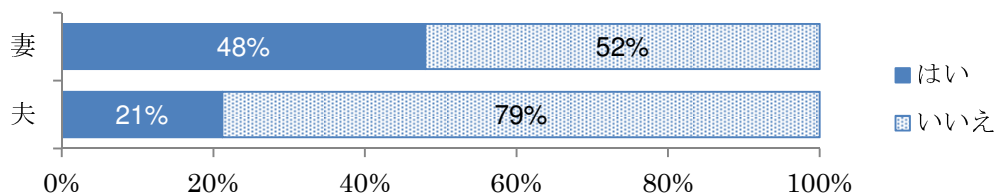
<表6：まだ検査に行っていない理由を教えてください（複数回答）>



(7) 助成制度の認知度

夫婦ともに、助成制度を知らない層が過半数となった。特に、夫は2割程度の認知度となっている。

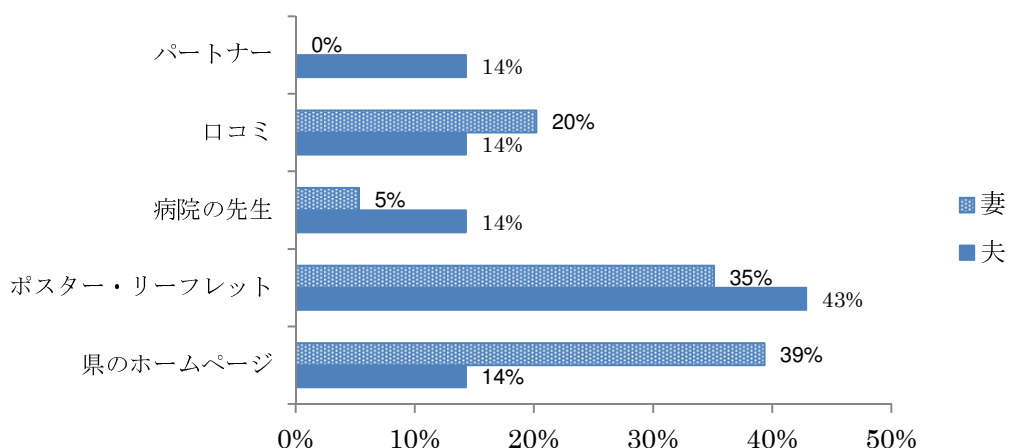
<表7：助成制度があることを知っている>



(8) 助成制度を知った媒体について

「県のホームページ」が回答数としては最も多く、次点で「ポスター・リーフレット」となった。「口コミ」の割合も大きかったことから、SNS等の広報が有効であることが伺える。夫は妻から情報を入手することはあるが、逆は見られない。

<表8：助成制度をどこで知りましたか>



(9) 妊活・不妊治療についての意識

夫婦とも「相談できる人がいない」が最多となった。特に男性はその割合が顕著である。また女性は職場のサポートについて望む割合も大きい結果となった。

<表9：妊活・不妊治療で特に共感するフレーズを教えてください>

